

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-1-4 治安対策の推進
---------	--------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	警務課長 伊藤敏成	電話番号	0852-26-0110 (代)
----------	-----------	------	------------------

事務事業の名称	治安基盤強化事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	警察の組織の人的、物的及び制度的基盤を整備し、精強な第一線警察を構築することにより、県民の安全で安心な生活を確保する。	
事業概要	治安対策を推進するためには、警察組織の人的、物的及び制度的基盤整備を図る必要があることから、優秀な人材を確保し、教養の充実を図るとともに、装備資機材の整備や業務の見直し・効率化を徹底し、治安基盤の強化を推進する。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値		4.6	4.3	4.1	3.9	件/千人
	取組目標値							
	式・定義	県人口千人当たりの刑法犯認知件数	実績値	4.8	4.4			
2	指標名	目標値						
	取組目標値							
	式・定義		実績値					
		達成率	-	104.4	-	-	-	

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	957,616	383,465
うち一般財源 (千円)	950,025	324,484

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

- 平成28年中の刑法犯認知件数は3,047件（前年比-295件）。犯罪率は全国7位（良い順）。平成29年7月末の刑法犯認知件数は1,557件（前年比-213件）
- 優秀な人材の確保～平成29年度の警察官採用試験（大卒：4月採用）の競争倍率は3.7倍。
- 現場執行力の強化～平成29年7月末における各種事件事故を想定した現場対応訓練の回数は150回（前年比+22回）。
- 装備資機材の整備～警察で保有する小型船舶の見直しを行い、予定の整備を完了。また、国整備の警察車両の耐用年数が延伸された。
- 組織体制及び警察施設の整備～平成29年3月に少年女性対策課に「人身安全対策センター」を新設したほか、4駐在所を統合し「出雲西交番」を新設。また、1駐在所の新築と、5駐在所の改修工事を実施。
- 業務の合理化・効率化～業務の見直しを行うなど業務の合理化・効率化を推進中。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 優秀な人材確保～広報月間を設け、組織を挙げた募集活動を展開し、平成29年度は採用試験を2回実施し、競争倍率（4月採用）が向上した。
- 現場執行力の強化～各種事件事故を想定した現場対応訓練の反復実施により、現場執行力の強化を図った。
- 装備資機材の整備～小型船舶の計画的整備により、災害時や水難救助活動において、迅速な対応が可能となった。現有車両の維持と配置の見直しにより、現場機動力の強化を図った。
- 組織体制及び警察施設の整備～警察署との連携強化及び迅速的確な捜査活動を行うため「人身安全対策センター」を新設し、人身安全関連事案対策の強化を図った。また、4駐在所を統合し「出雲西交番」の新設及び1駐在所の新築と、5駐在所の改修工事を実施した。
- 業務の合理化・効率化～業務の見直しを行い、合理化・効率化を推進して第一線警察職員業務負担の軽減を図った。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 刑法犯認知件数は減少傾向を示しているが、治安情勢は予断を許さない状況にある。
  - 人的基盤の整備に関し、警察官志望者が減少し、採用試験の競争倍率の低水準が継続しているほか、合格者の採用辞退等、優秀な人材確保が困難となっている。また、若手警察官の増加により現場執行力の低下が懸念される。
  - 警察事象が複雑化・多様化する中で、警察官の安全性・機動性の確保に必要な装備資機材が不足している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 治安情勢が予断を許さない原因として、人身安全関連事案や特殊詐欺の被害の続発、更には情報通信技術が進展する中でサイバー空間の脅威の深刻化や犯罪のグローバル化の進展等が挙げられる。
  - 警察官志望者が減少している原因として、少子高齢化に伴う就職適齢人口の減少、民間企業の採用活発化等が挙げられる。若手警察官の増加原因は、大量退職・大量採用の継続である。
  - 警察事象が複雑化・多様化する中で、警察官の安全性・機動性の確保に必要な装備資機材の導入が進んでいない。また、更新時期の装備資機材が多数存在する。
- ③原因を解消するための「課題」
- 治安情勢への対応に関しては、今後も警察力の充実強化に向けた人的、物的及び制度的基盤の整備を推進していく必要がある。
  - 人的基盤の整備に関しては、警察官の魅力・やりがい等に関する効果的な情報発信を行い、優秀な人材を確保していく必要がある。また、採用辞退防止対策の継続的な実施が必要である。さらに、増加する若手警察官に対しては、各種事件事故を想定した現場対応訓練を継続実施し、現場執行力を強化していく必要がある。
  - 各種事案に対応できる装備資機材の新規整備及び更新を図る必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 優秀な人材の確保～就職説明会参加者等に対するメールマガジンの発信、リクレーター制度の効果的活用、警察学校等におけるオープンキャンパスの充実など、組織を挙げた募集活動を継続し、更なる応募者の獲得に努めるほか、合格者に対する継続的な連絡等により、採用辞退防止を図る。
- 現場執行力の強化～各種事件事故を想定したロールプレイング形式による現場対応訓練の継続実施及び訓練指導者のレベルアップを図り、第一線警察官の現場執行力の強化を図る。
- 装備資機材の新規整備、更新を計画的に推進する。
- 施設の長寿命化を図るとともに、警察施設としての機能を果たすための施設整備を推進する。